

教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検、評価報告書

平成29年度事業の評価結果

平成31年1月22日

安芸太田町教育委員会

目 次

はじめに	1 頁
学校教育課	
1 学校の概要及び教育施策（評価無し）	3 頁
2 教育委員会費	
（1）教育委員会運営事業（評価無し）	5 頁
3 教育総務費	
（1）教育委員会事務局運営事業	
ALT（外国語指導助手）活用事業	6 頁
学校保健	7 頁
（2）奨学金貸付事業	8 頁
（3）連携教育推進事業	9 頁
（4）加計高校を育てる会事業	10 頁
（5）学びの変革アクションプラン事業	11 頁
4 小学校費・中学校費	
（1）小・中学校管理事業	12 頁
（2）小・中学校管理・運営事業	14 頁
（3）小学校施設整備事業（評価無し）	15 頁
5 教育振興費	
（1）小学校教育振興事業・中学校教育振興事業	15 頁
（2）小学校就学援助事業・中学校就学支援事業	18 頁
（3）「山・海・島」体験活動“ひろしま全県展開プロジェクト”	19 頁
6 幼稚園費	
（1）幼稚園管理事業	21 頁
7 保健体育費	
（1）加計共同調理場運営事業・筒賀共同調理場運営事業	22 頁
生涯学習課	
1 社会教育費	
（1）社会教育総務管理事業	25 頁
町村史管理事業（評価無し）	26 頁
（2）社会教育施設管理事業（評価無し）	26 頁
（3）文化財保護管理事業	27 頁
（4）生涯学習推進事業	28 頁
（5）図書館運営事業	36 頁
（6）放課後子ども教室推進事業	38 頁
2 保健体育総務費	
（1）保健体育総務管理事業	40 頁
（2）体育施設管理事業（評価無し）	42 頁
（3）社会体育振興事業	44 頁

はじめに

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。

安芸太田町教育委員会では、事務・事業の点検を行い、教育行政サービスの質の向上と効率化の実現、コスト削減を進めるために、評価し、仕事の再点検・再確認を行うとともに、厳しい財政状況における効果的な町民サービスを実現させ、効率的な教育行政の推進に資するよう努めます。

2 安芸太田町教育委員会点検・評価の方法

評価は各事業等について、行政内部による評価を行います。

その後、社会教育委員会議（外部委員）に諮り、議会への提出、ホームページで公表します。

また、公表により町民の皆さんからいただく意見、要望も参考にし、今後の事業計画に反映していきます。以上の工程を毎年繰り返すことで、事業の改善を進めよりよい教育行政の運営に努めます。

3 実施の方法

評価について

（１）評価の対象とする事業

事業評価をする項目は、安芸太田町主要施策の成果に関する調書をベースに評価します。ただし、予算のほとんどが事務費や管理費である場合は、評価しません。評価する年度で終了・廃止となる事業についても、すべて評価対象となります。

（２）事業評価における評価者（記入者）

事業評価は事業予算担当者が評価者となります。

（３）事業の評価

ア 必要性

現在の町民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうかを評価します。

イ 有効性

施策や運営方針、町で策定した長期総合計画の目的の実現にどの程度寄与しているかを評価します。

ウ 経済・効率性

事業のコストがかかりすぎていないか、最小の経費で最大の効果を発揮しているか、無駄がないかなど、経済性の面から評価します。

また、事務状況の評価し、併せて目標の設定水準が適切かどうかも検討します。

エ 評価

事業の各評価項目を勘案し、外部評価委員の評価と意見の聞き取りを行います。

～ 評価のランク ～

A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

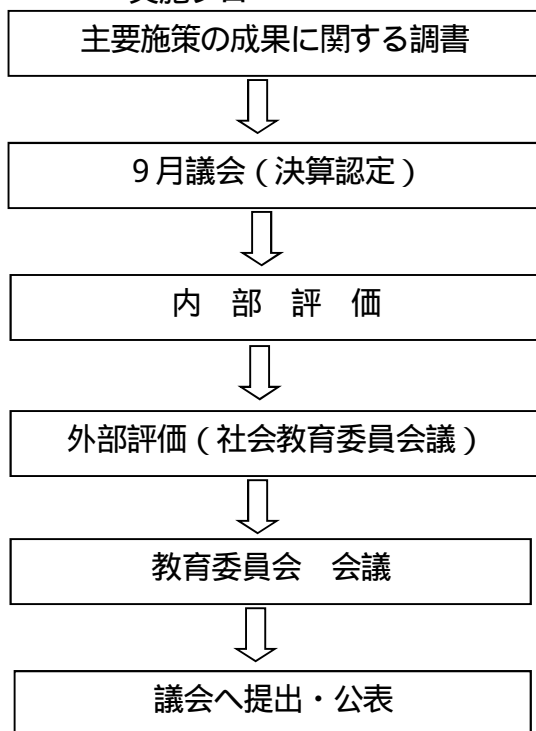
(4) 事業の方向性

上記の評価結果を踏まえて、今後どのように事業を進めるかを選択します。

(5) 評価結果の公表

公表に際しては、議会へ提出し町ホームページに掲載します。

～ 実施フロー ～



1. 学校の概要及び教育施策

小学校は、児童数 203 名で平成 28 年度と比べて 6 名増、学級数は増（通常学級 1 増、特別支援学級 1 増）であった。

中学校は、筒賀中学校と戸河内中学校が統合し、新たに安芸太田中学校が誕生した。全体では生徒数 119 名で 3 名の増であった。

平成 27 年度から 3 年間、広島県教育委員会「『学びの変革』パイロット校事業」の委託を受け、児童生徒が主体的・協動的に学ぶ力を育成するため、加計中学校（パイロット校）安芸太田中学校、加計小学校（ともに実践指定校）を中心にして町内全小中学校へ協調学習を柱とした取組みを展開した。町内での実践も増え、1 月に開催した合同研究会においても県教育委員会から高い評価を得た。

次世代科学者育成プログラムとしては 5 年目となり、本町独自で日本技術士会中国本部及び広島工業大学と提携し、将来の科学の発展に寄与する人材育成につながるものとして「安芸太田町科学アカデミー」を夏休みに開催した。

小学校 5 年と中学校 2 年を対象とした「広島県基礎・基本学力定着状況調査」では、小学校、中学校では一部県平均を下回り、基礎的学力の定着に課題がある。各校では改善計画を策定し、管理・指導主事も出向いて実施方法も検討しながら学力向上に取り組んでいる。

外国語活動については、外国語指導助手（ALT）は引き続き 2 名体制で活動し、学校や児童生徒にもなじみ、小学校や幼稚園では外国語活動、中学校では外国語科（英語）の指導をさらに充実させた。また、平成 29 年度からは中学生の英語力向上として、英語検定料補助事業を新たに実施した。

学校施設においては、戸河内小学校校舎新築に伴う残りの外構工事（平成 28 年度繰越）が完了し、平成 29 年 5 月 13 日に竣工式を行った。

学校規模適正配置推進に当たっては、加計小学校と安芸太田中学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、地域とともにある学校づくりを進めている。

(1) 学校別児童・生徒数及び教職員数（平成 29 年 5 月 1 日現在）

小学校

（単位：人）

	加計	筒賀	上殿	戸河内	合計
学級数	8 (2)	4	5 (1)	5 (1)	22(4)
1 年生	17	8	3	7	35
2 年生	15	9	7	5	36
3 年生	22	5	4	3	34
4 年生	19	5	3	7	34
5 年生	16	4	5	7	32
6 年生	21	4	1	6	32
計	110	35	23	35	203
学校長	1	1	1	1	4
教 頭	1	1	1	1	4
教 諭	12	4	6	6	28
養護教諭	1	1	1	1	4
事務職員	1	1	1	1	4
栄養教諭	0	1	0	0	1
計	16	9	10	10	45

学級数の（ ）は、うち特別支援学級数。

教職員数 教諭は、本務者の数。

中学校

（単位：人）

区 分	加 計	安芸太田	合 計
学級数	4 (1)	4 (1)	8 (2)
1 年生	24	13	37
2 年生	22	23	45
3 年生	16	21	37
計	62	57	119
学校長	1	1	2
教 頭	1	1	2
教 諭	11	12	23
養護教諭	1	1	2
事務職員	1	1	2
計	15	16	31

学級数の（ ）は、特別支援学級数。

2. 教育委員会費

(1) 教育委員会運営事業

安芸太田町教育委員

教育長：二見吉康

教育委員：清胤祐子・河野義文・池野博文・正山幸夫（～H29.11.10）・河本千絵（H29.11.11～）

教育委員会議の開催状況

13回

日 時	主な協議事項	出席委員
4月18日	安芸太田町奨学金貸付基金運営審議会規則の一部改正について コミュニティ・スクールの指定について 安芸太田町社会教育委員の委嘱について 安芸太田町公民館運営審議会委員の委嘱について 安芸太田町立図書館協議会委員の任命について 安芸太田町放課後子ども教室運営委員会設置要綱について	5
5月18日	安芸太田町教育委員会決裁規定の一部を改正する訓令について 安芸太田町英語検定料補助金交付要綱について 安芸太田町学校運営協議会設置運営要綱の一部を改正する訓令について	4
6月20日	安芸太田町外国語指導助手設置規則の全部改正について	5
7月18日	安芸太田町教育委員会公印規則の一部改正について	4
8月21日	平成30年度使用教科用図書の採択について 著作教科書及び学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について	5
9月20日	学力調査結果について	5
10月16日	安芸太田町社会教育委員の委嘱について 安芸太田町公民館運営審議会委員の委嘱について 安芸太田町立図書館協議会委員の任命について 安芸太田町遠距離児童・生徒及び園児通学費補助金交付規定の一部改正について	5
11月15日	学校教職員人事異動について	5
12月21日	安芸太田町立小・中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部改正について 安芸太田町立幼稚園園則の一部改正について 安芸太田町立小中学校事務処理等規定の一部改正について	5
1月22日	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価報告について	5
2月21日	木坂の社倉の改修について 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について	4
2月26日	安芸太田町戸河内ふれあいセンター条例の一部改正について 3月定例会での補正予算及び平成30年度当初予算について	4
3月15日	安芸太田町就学援助費支給要綱の一部改正について 県費負担教職員の任免その他の進退の内申について	5

学校訪問・研究公開訪問

平成 29 年 6 月 20 日 戸河内幼稚園・戸河内小学校・上殿小学校

平成 29 年 7 月 10 日 筒賀小学校・安芸太田中学校

平成 29 年 7 月 11 日 加計小学校・加計中学校

3. 教育総務費

(1) 教育委員会事務局運営事業

- A L T (外国語指導助手) 活用事業

事業の目的・内容

J E T プログラムによる A L T 2 名体制を維持し、全小中学校へ毎週 (小学校週 1 回、中学校週 2 回) 訪問し、児童・生徒の英語による実践的コミュニケーション能力の育成と国際理解を深める。

また、幼稚園や町内各こども園や保育所へ訪問し、就学前教育の充実を図る。

事業の成果と課題

J E T プログラムにより 8 月に 2 名の A L T を新たに迎え、新しい A L T が新生活や学校生活へ早期に順応できるよう努めた。2 人は各学校の授業における A L T の役割を理解し、児童・生徒や教師と積極的にコミュニケーションをとることで早期に学校生活に馴染み、意欲的に活動することができた。

幼稚園は毎週 1 回、町内保育所及びこども園には月 1 回訪問し、ゲームや歌あそびをして過ごすことで、英語や多文化に親しむ機会を持たせることができた。

小学校においては「外国語活動」の充実と、コミュニケーション力の育成を図るとともに、新学習要領による英語の教科化へ向けた各学校の授業の取組みを補助した。

また、授業の中で折に触れて A L T の自国の文化を紹介する時間をとり、児童に他国の文化への興味を持たせることができた。

中学校においては英語科の授業のほか、休憩時間や他の活動時にも声をかけ、生徒の意欲や力を伸ばすことができた。

また、月ごとに A L T の自国の文化や生活について紹介するポスターを作成し、学校の掲示板へ掲示することで生徒の興味や国際理解を深めることができた。

英語暗唱大会においては、出場する生徒のサポートを熱心に行い、平成 29 年度も芸北地区の英語暗唱大会で入賞し、2 名の生徒 (1 年生) が県大会に出場することができた。

今後は平成 32 年度からの小学校における英語の教科化と新学習要領に対応するため、更なる英語教育の充実へ向け有効な A L T の活用について検討していく必要がある。

また、就学前の教育について更なる充実を図っていきたい。

歳出決算額 (A L T 報酬・費用弁償・負担金) 8,090,576 円

評価

事業の 評価	必要性 (町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性 (施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			

	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	A	評価委員意見	ALTの指導により、英語能力の向上や国際感覚が高まるなどの成果が上がっている。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

- 学校保健

- 事業の目的・内容

- 学校保健安全法に基づき、児童生徒等及び教職員の健康保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資するため、毎年各学校で健康診断を実施する。

- 事業の成果と課題

- ア 学校医等の委嘱（学校医 3 人、学校歯科医 4 人、学校薬剤師 1 人）

- イ 健康診断等実施状況（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

区 分	実 施 校	実 施 日	受診人数(人)	
定期健康診断	幼稚園	尿(全員)	4/11～4/21	326
		ぎょう虫(幼のみ)	4/13	4
		心電図(小1・中1)	4/26	72
	小学校	眼科検診(全員)	5/22・5/29	321
	中学校	耳鼻科検診(全員)	6/1・8・15	321
		内科検診(全員)	各校6月中に実施	325
		歯科検診(全員)	2回実施(春・秋)	321
新庄駅伝前健診	加計中・安芸太田中	大会前に実施	41	
就学前児童健康診断(内科・歯科)	4こども園・保育所 1幼稚園	10～11月実施	37	

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない

	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	健康診断を毎年行うことにより、子供たち自身も健康に関心をもつことと同時に早期発見につながっている。	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了	

(2) 奨学金貸付基金運営事業

事業の目的・内容

高等学校、専門学校及び大学に進学を希望するが、経済的な理由から修学が困難な者に対して奨学金を貸し付ける。

平成29年度の新規貸付者は、大学6人、専門学校1人、高校2人であった。

ア 収支の状況（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

収入の部		支出の部	
費目	金額(円)	費目	金額(円)
返還金	7,470,050	貸付金	7,897,000
前年度繰越金	41,776,549	次年度へ繰越	41,404,003
寄附金	0		
利子	54,404		
計	49,301,003	計	49,301,003

イ 貸付状況（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

区分	貸付者数(人)			貸付額(円)
	大・専	高	計	
29年度新規貸付	7	2	9	3,921,000
在学貸付中の者	7	2	9	3,976,000
計	14	4	18	7,897,000

ウ 奨学基金会計の状況

区分	金額(円)
貸付金	51,414,750
現金	41,404,003
計	92,818,753

事業の成果と課題

経済的な支援ができ、進学を望む者の希望がかなえられた。貸付希望については年度によって人数のバラツキがあるものの、現在は収支バランスが保たれている。今後、希望者が急増すれば基金の不足が予測される。

返還事務のシステム導入については今後の検討課題である。

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	貸付について、さらに広報活動を勧め、多くの学生の進路を保障したい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(3) 連携教育推進事業

事業の目的・内容

小学校又は中学校間及び中学校区ごとの小小連携や小中連携といった児童・生徒・教職員を含めた学校間の交流、教育振興を目的とする。

事業の成果と課題

本町で進める連携教育の目的達成のためにキャンプ、社会見学、合宿といった合同教育への講師謝礼や児童生徒の移動等に予算を充て、より効率的な推進を図った。

小学校間連携では、安芸太田中校区で集合学習を実施し、協調学習を積極的に実践するとともに、小学校間の人間関係づくりなどを推進した。

加計高校との連携教育では、高校生と中3の合同合宿を実施した。中1ギャップのみならず、高1ギャップの解消、進路決定に効果的であった。

歳出決算額 1,722,607 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない

	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	有意義な事業で継続推進して欲しい。	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了	

（４）加計高校を育てる会事業

事業の目的

本町唯一の高等学校である県立加計高等学校の特色ある学校教育推進と、県立高等学校再編整備基本計画における統廃合対象校である加計高等学校の存続を目指し、それに要する経費に対し補助金を交付する。

事業の成果と課題

学校全体の学力向上による進学率アップのための進路対策や、魅力ある学校づくりとして地元の資源を生かした菌類の探究や森林講座など引き続き行っている。また、地元の中学校を対象としたオープンスクールや、中学校へ出向いての進路講演、進路面接指導を行うなど中学校と連携した活動を行い、中高連携を深めた。

また、平成 28 年度から引き続き中高一貫教育に伴う連携枠として地元出身生徒の確保や、町外・県外からの生徒確保に努めた。

進路対策講座の一環として行っている「公営塾」は、会場を川・森・文化・交流センターとし、土日及び学校の振替休日を利用して開催し、加計高生はもとより中学生へも門戸を広げている。

広報活動としては、機会あるごとに各所で広報促進グッズを配るなどし、広報活動を行った。

加計高校生徒数（平成 29 年 4 月 1 日現在、単位：人）

1 年生	2 年生	3 年生	合計
31	40	35	106

加計高校を育てる会への補助金内訳

事業名	金額（円）	内容
教育支援事業	3,299,031	進路対策講座、総合的な学習支援、部活支援ほか
総合支援事業	3,229,007	射撃部支援、通信衛星授業支援（DVDリース料等）ほか
居住支援事業	3,820,024	1 年生 8 名、2 年生 8 名、3 年生 1 名 合計 17 名（うち県外は 3 名）
広報等活動事業	1,331,306	加計高校の広報活動用消耗品（生徒 PR 用 T シャツの買い替えなど）
合計	11,679,368	

公営塾講師賃金 2,206,241 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	A	評価委員意見	中高間の連携を引き続き行っていただき、地元出身生徒の確保などの推進をお願いする。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(5) 学びの変革アクションプラン事業

事業の目的・内容

平成 27 年度より広島県は、広島版「学びの変革」パイロット校事業をスタートさせ、重点施策として取り組んできた。本町では現在、加計中学校がパイロット校に、安芸太田中学校（H27 年度は戸河内中学校）・加計小学校が実践指定校に指定されている。これが

ら社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」を促す教育活動として、自ら課題を見つけ、それをよりよく解決していく「課題発見・解決学習」を推進するものである。

事業の成果と課題

本町では、これまで取り組んできた「協調学習」を核として取り組んできた。本事業の推進により、指定校3校では協調学習の授業実践及び研究が進み、町協議会を通して、すべての学校で授業実践ができる状況となった。教職員の指導力向上にも繋がっている。

歳出決算額 624,000 円（県委託金 624,000 円）

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	県委託事業として実施し、平成 29 年度で終了。			
外部評価	B	評価委員意見	協調学習を軸に、自ら課題を見つけ、解決していくよう取り組み実践している事業である。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

4. 学校管理費（小・中学校）・幼稚園管理費

(1) 小・中学校管理事業・幼稚園管理事業

- 災害共済事務（役務費）

事業の目的・内容

災害共済給付制度は、「独立行政法人日本スポーツ振興センター法」に基づく国の公的制度で、学校の管理下における児童、生徒等の負傷、疾病、障害又は死亡に関して必要な給付を行うことにより、学校教育の円滑な実施に資することを目的としている。

町では、この独立行政法人「日本スポーツ振興センター」に児童・生徒等全員が加入している。

日本スポーツ振興センターに係る被害取扱状況（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

区分	平成 28 年度		平成 29 年度	
	延べ給付数（件）	給付額（円）	延べ給付数（件）	給付額（円）

幼稚園	0	0	0	0
小学校	22	42,038	14	26,770
中学校	27	54,031	16	32,924

事業の成果と課題

前年度に比べ件数が減少したが、発生状況としては小学校では休憩時間、中学校では部活動中の骨折捻挫・挫傷・打撲が多かった。

その他、各学校行事中の怪我也数件発生しており、引き続き学校での指導について注意を喚起したい。

- スクールバス運行（使用料及び賃借料）

遠距離通学に係る小学校便は6路線、中学校便は7路線で運行し、児童生徒の安全な登下校を確保した。

小学校費

学校名	運行地域	金額（円）	備考
加計小・ 加計中	猪山	5,608,770	小・中学生が一緒に登校
	修道・安野	9,261,446	
	坪野・津浪	6,961,490	
	殿賀	6,216,614	
戸河内小	松原・小坂	6,163,938	
	寺領	4,519,152	
合計		38,731,410	

（統合に伴う通学経費の補助金：国庫補助3,099,440円・県費補助619,820円）

中学校費

学校名	運行地域	金額（円）	備考
加計中	猪山	1,408,022	中学校のみ利用及び週末部活便
	修道・安野	1,932,876	
	坪野・津浪	1,763,464	
	殿賀	1,558,534	
安芸太田中	寺領・下本郷・土居・上殿	8,194,010	松原・小坂便は、スクールタクシー
	田吹・遊谷・上本郷	8,096,528	
	松原・小坂	4,564,950	
合計		27,518,384	

（統合に伴う通学経費の補助金：国庫補助6,016,560円・県費補助1,203,180円）

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	児童、生徒の安心・安全な登下校のため、さらに重点化していただきたい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(2) 小・中学校管理・運営事業

事業の目的・内容

児童生徒が安心・安全な教育活動を行うために、施設の保守・整備・修繕を行う。

事業の成果

ア 施設の修繕状況（修繕料）

小学校 1,993,289 円

筒賀小肥料散布機・スクールバス車検等修繕

上殿小防犯灯修繕

中学校 1,265,134 円

イ 管理、点検等業務委託（委託料）

小学校 3,564,037 円

自家用電気工作物保安管理業務・消防設備点検・樹木剪定委託等

中学校 4,058,628 円

自家用電気工作物保安管理業務・消防設備点検・樹木剪定委託等

加計中エレベーター・空調設備メンテナンス委託 等

ウ 施設整備状況（工事請負費）

小学校費

事業内容	金額（円）	備考
安芸太田町立加計小学校一輪車置場整備工事	1,063,800	

安芸太田町立加計小学校渡り廊下整備工事	1,900,800	
合計	2,964,600	

中学校費

事業内容	金額(円)	備考
安芸太田町立加計中学校空調設備工事	4,860,000	
安芸太田町立安芸太田中学校ランチルーム改修工事	1,036,800	
安芸太田町立加計中学校特支教室空調整備工事	1,080,000	
合計	6,976,800	

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	安全な教育活動を行なうために施設の整備点検は継続すべきである。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(3) 小学校施設整備事業

戸河内小学校校舎新築に伴う残りの外構工事(平成28年度繰越)として、27,087,000円を執行した。

5. 教育振興費(小・中学校)

(1) 小学校教育振興事業・中学校教育振興事業

- 遠距離通学費補助金 (平成29年4月~平成30年3月)

区分	学校名	対象者数(人)	補助額(円)
中学校	加計中学校	5	138,020
	安芸太田中学校	2	14,700
合計(a)		7	152,720

自転車通学者も含む

- 特色ある学校づくり推進事業補助金

事業の目的・内容

各学校が独自性のある学校づくり推進事業の展開が実施できるように活動費補助を行い、もみじプラン21を基本とした特色のある活動を推進した。

小学校費

学校名	金額(円)	事業テーマ
加計小学校	570,000	自ら学び 自ら考え 行動する児童の育成 (マーチングバンド合宿指導講師招聘、バンドフェス参加、 協調学習に係る推進担当教諭旅費等)
筒賀小学校	189,000	ふるさとに学び、高い自己肯定感を持つ児童の育成 (歌唱指導、栽培活動、ものづくり教室講師謝礼、芝生事業等)
上殿小学校	121,000	魅力ある上殿小学校づくり(表現力の向上、心豊かな児童の育成)(米づくり、紙すき体験等講師謝礼、山ゆり訪問諸経費、バス代等)
戸河内小学校	142,581	自信と安心を育み、意欲を持った子どもを育てる教育活動の創造(テレビ番組作成、絵本作家読み語り等講師謝礼、ライフル射撃体験バス代等)
合計(b)	1,022,581	

中学校費

学校名	金額(円)	事業テーマ
加計中学校	208,000	広い視野を持ち、地域に貢献し、主体的に生きる生徒の育成 (マナー講座、キャリア教育、歌唱指導、異文化活動講師招聘、先進地視察等)
安芸太田中学校	569,070	未来を創る人づくり 学びを生き方につなぐ教育の創造 (マナー講座、キャリア教育、伝統文化産業体験等、協調学習に係る推進担当教諭旅費等)
合計(c)	777,070	

事業の成果と課題

特色ある学校づくり補助金による外部講師の招聘や地域の方の協力により、各学校とも学校長の経営方針に基づいた特色ある学校経営及び教育研究推進に大いに成果があがるとともに、新しい学びプロジェクト事業(市町と東京大学による協調学習研究連携)に町内小中学校の推進教職員が参加し、協調学習を主にした授業力向上に努めることができた。

- その他負担金及び補助金

町内全小中学校は、合同修学旅行をそれぞれ実施し、学校間の児童生徒の交流を深めることができ、団体行動による社会性の育成と同世代同士のコミュニケーション育成につながった。

平成 29 年度から英語検定料補助金を実施し、全生徒に英語検定に挑戦する機会を設けることができた。今後は目標級の合格率を上げていくための取組みが必要である。

名 称		金 額 (円)	備 考
小学校	小学校修学旅行補助金 (関西方面)	410,292	@12,000 × 32 人 他
小学校計(d)		410,292	
中学校	中学校修学旅行補助金 (関西方面)	861,720	@18,000 × 45 人 他
	英語検定料補助金	264,550	加計中 61 名分 安芸太田中 56 名分
中学校計(e)		1,126,270	
小学校費補助金合計(b)+(d)		1,432,873	
中学校費補助金合計(a)+(c)+(e)		2,056,060	

評価

事業の評価	必要性 (町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性 (施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性 (事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度 (計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	A	評価委員意見	各校とも「もみじプラン21」を基本として特色ある活動の成果を上げている。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(2) 小学校就学援助事業・中学校就学援助事業

事業の目的・内容

経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対して、国の制度に則り、学用品や給食費など必要な援助を行った。

事業の成果

援助が必要な児童生徒に対して、経済的負担を軽減することができた。

歳出決算額

ア 準要保護児童生徒就学援助費に係る支給状況（平成29年4月～平成30年3月）

区分	対象者数			支給額(円)			備考
	小	中	計	小学校	中学校	計	
学用品費等	48	27	75	639,590	640,550	1,280,140	
修学旅行費	8	9	17	108,800	326,817	435,617	
校外活動費	9	1	10	4,680	3,590	8,270	
新入学学用品費	7	10	17	143,290	235,500	378,790	
給食費	46	26	72	2,238,012	1,502,049	3,740,061	
医療費	8	2	10	11,140	2,500	13,640	
P T A 会費	29	23	52	83,100	96,000	179,100	
計(f)				3,228,612	2,807,006	6,035,618	

イ 特別支援就学奨励費補助金に係る支給状況（平成29年4月～平成30年3月）

区分	対象者数			支給額(円)			備考
	小	中	計	小学校	中学校	計	
学用品費等	5	1	6	66,020	24,550	90,570	国庫補助額 小・中学校 117,000円
修学旅行費	2	1	3	27,200	36,313	63,513	
校外活動費等	5	1	6	2,400	3,690	6,090	
新入学学用品費	1	0	1	20,470	0	20,470	
給食費	5	1	6	243,180	58,710	301,890	
計(g)				359,270	123,263	482,533	
扶助費合計(f)+(g)				3,587,882	2,930,269	6,518,151	

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない

	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分にできている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	子供が安心して教育を受けられる環境を維持してもらいたい。	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了	

(3) 「山・海・島」体験活動推進事業

事業の目的・内容

日常とは異なる環境での生活を体験し、児童の自立心や主体性などを育てるとともに体験先の地域の方々や学校との交流を通して、コミュニケーション能力など人間関係を形成する力を育てることにより、児童の豊かな心を育成することを目的とする。

3泊4日の宿泊体験を加計小は単独で、他の3校は合同で実施した。

加計小は、マーチングバンドの練習を中心に仲間と協力することや、比治山大学の学生たちと交流することで参加児童が共通の関心・課題を持ち、仲間意識と共に自己有用感を高めることを目指して実施した。

合同3校は国立江田島青少年交流の家で、海辺の生物観察やカッター研修などを行い、家を離れて集団生活をするを通して「規範意識と協調性」をさらに高めることを目指して実施した。

事業の成果と課題

ア 成果

体験活動に関わる児童アンケートの結果、自分たちでやりきることにより「自立心」「主体性」が、そして集団生活により「仲間との連帯感」「コミュニケーション能力」の向上が見られた。また、自らの成長を実感した児童が多かった。これらは、多くの児童にとって4日間の集団活動を通して、互いに自分の考えや思いを伝え、交流することや暑い中でも自らを律し集団として高まること、そして感謝や思いやりの気持ちの大切さを体感できた結果の表れだと考えられる。

イ 課題

体験活動で体験し学習したことを、日常生活で継続・発展させ活かしていけるような工夫・手立てを継続していくことが必要である。

平成26年度から継続して取り組んできた事業であるが、今後は経費の問題、宿泊場所の問題など、長期的な見通しを持って取組みを進めていく必要がある。

歳出決算額 389,605 円

評価

業 事	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）
-----	-------------------------------

	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	小学校4校の実施として整理する方向でいる。			
外部評価	B	評価委員意見	「体験活動が目的になっているのではないか」と常に見直していく必要がある。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

6. 幼稚園費

(1) 幼稚園管理事業

事業の目的・内容

乳幼児期は、小学校以降の教育の基盤となる力を育む大事な時期であり、幼稚園では、幼稚園指導要領に沿って適切な教育課程を計画し実施してきた。

事業の成果と課題

幼稚園が一園になり、平成 29 年度においては園児数が前年度から 3 名減の計 4 名となったことにより、集団教育や年齢に応じた教育が行えないこと等、大きな課題となっている。そのため、認定こども園や保育所との年齢別交流の継続実施や、ALT の訪問による英語あそびなどを実施し、小人数ではあるが工夫しながら想像力、表現力や思考力などを育てる取組みを行った。

園別園児数及び教職員数（平成 29 年 5 月 1 日現在、単位：人）

区 分	戸河内
赤組(3歳児)	1
黄組(4歳児)	2
青組(5歳児)	1
園児数計	4
前年度園児数	7
前年度比較	3
園 長	1
教 諭	2 (1)
職員数計	3

園長は、小学校長が兼務 () はうち臨時教諭

歳入歳出決算額

平成 23 年度から、若者定住施策の一環と少子化対策に資するための政策として、町内未就学児の保育料及び幼稚園授業料の減免により、満 18 歳未満の子を扶養する世帯の第 2 子は半額、第 3 子以降は無料とし、平成 25 年度から第 2 子以降無料となり、幼稚園授業料徴収は以下ようになった。

歳入

区 分	金 額 (円)	備 考
幼稚園授業料	20,400 円	第 1 子 1 人、第 2 子 3 人

歳出（負担金及び補助金）

区 分	金 額 (円)	備 考
研修会負担金	2,000	
広島県国公立幼稚園連盟会費	8,100	

合 計	10,100	
-----	--------	--

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備 考				
外部評価	C	評価委員意見	極少数で「社会性」を培うことは大変、難しい。友だちの動きを見て学ぶことができにくい。今後の検討必要。	
事業の方 向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

7. 保健体育費

(1) 加計共同調理場運営事業・筒賀共同調理場運営事業

事業の目的・内容

2つの学校給食共同調理場から、町内の幼稚園、小学校、中学校及び保育所、認定こども園へ、安心で安全な完全給食を提供する。

事業の成果と課題

栄養士間で定期的に情報を共有し、広島県で取り組んでいる「ひろしま100万食プロジェクト」で募集したキャッチコピーを町内統一メニューでも使ったり、学校の授業で取り組んだ献立を給食に取り入れたりすることで地域食材や町への関心を持つ機会を設けるとともに、地産地消に繋げている。

また、町の備蓄品を有効利用することで防災について学ぶと共に防災食を体験した。給食で体験することで防災食がどんなものなのか、災害時に備えて何をしたら良いかを考える機会が持てた。

産直や農家と連携をし、新鮮な物資を取り入れるようにしているが、物資の移動手段が難しいことがあり、継続的な地産地消を行うためにも改善方法を考慮する必要がある。

施設面では加計調理場の戸河内方面用の給食車を新校舎に対応できるよう、リフト付き給食車の整備を行い、搬入がスムーズに行えるようになった。筒賀調理場の給食車においても計画的に更新する予定である。

加計学校給食共同調理場（平成29年5月1日現在、単位：人）

職 員	場長 1人、栄養士 1人、調理員 正職3人、臨時4人(1人2時間勤務) 運転手(臨時)4人 計13人		
学 校 給 食(職員数は臨時・非常勤含む)			
幼稚園	児童数	職員数	合 計
戸河内	4	2	6
小学校	児童数	職員数	合 計
戸河内	35	10	45
加 計	110	17	127
中学校	生徒数	職員数	合 計
加 計	62	16	78
保育所・認定こども園(職員数は臨時・非常勤含む)			
保育所	3歳児未満	3歳児以上	職員数
修 道	5	11	6
認定こども園	3歳児未満	3歳児以上	職員数
あさひ	18	44	16
		・児童数 149人 ・生徒数 62人 ・職員数 45人 計 256人	
		・3歳児未満 23人 ・3歳児以上 55人 ・職員数 22人 計 100人	

筒賀学校給食共同調理場

職 員	場長(兼任)1人、栄養士 1人(兼任:筒賀小学校栄養教諭) 調理員 正職3人、臨時1人、運転手(臨時)1人 計7人		
学 校 給 食(職員は臨時・非常勤含む)			
小学校	児童数	職員数	合 計
筒 賀	35	9	44
上 殿	23	10	33
中学校	生徒数	職員数	合 計
安芸太田	57	17	74
		・児童数 58人 ・生徒数 57人 ・職員数 36人 計 151人	

学校給食費徴収状況

(決算書P.40)

	年度	調定額 [円]	収入額 [円]	収入未済額 [円]	未納数 (件)
現年度分	29年度	26,686,124	26,566,312	119,812	31
過年度分	21年度	50,080	50,080	0	0
	27年度	9,800	0	9,800	2
	28年度	69,875	69,875	0	0
	計	129,755	119,955	9,800	2

合 計	26,815,879	26,686,267	129,612	33
-----	------------	------------	---------	----

収納率 現年度分 99.55% (対前年比 0.23%減)

過年度分 92.44% (対前年比 6.14%増)

評価

事業 の 評 価	必要性 (町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性 (施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性 (事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度 (計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	地域食材の導入をさらに推進していただきたい。そのことで、児童、生徒に「ふるさとの良さ」を感じさせていく。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

教育委員会 生涯学習課

1. 社会教育費

(1) 社会教育総務管理事業

事業の目的・内容

社会教育の推進を図るため、各種団体への負担金・補助金を支払う。

社会教育関係負担金

名 称	金額(円)
広島県社会教育委員連絡協議会会費	25,000
けんみん文化祭ひろしま'17開催負担金	98,839
広島県公民館連合会負担金	76,900
筒賀東区分館テレビ共同受信施設組合金費	2,400
広島県公民館大会参加負担金	10,000
合 計	213,139

社会教育関係補助金

名 称	金額(円)
安芸太田町女性連合会事業補助金	1,170,000
安芸太田町子ども会連合会事業補助金	240,000
安芸太田町PTA連合会事業補助金	388,000
青少年育成安芸太田町民会議事業補助金	611,670
安芸太田町文化団体連合会事業補助金	346,000
合 計	2,755,670

事業の成果と課題

各種団体への活動を支援することで、団体の活発な事業展開が図られた。

歳出決算額 12,817,938 円

評価

事業 の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	

備考			
外部評価	B	評価委員意見	各団体が主体的に活動ができ、前向きにすすめるとりくみができるようにしてもらいたい。
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了

・ 町村史管理事業

事業の目的・内容

町村史の郵送等による販売を行っている。

事業の成果と課題

販売に関して、一括購入者への割引制度の導入等の販売促進を行っている。平成 24 年度から町ホームページ・バナーで広告宣伝を実施し一時的に販売冊数が好転したが、近年はバナー宣伝をしていないこともあり販売冊数は低下している。

今後、町ホームページのほか、SNS 等を利用するといった新たな販売促進を図る。

町村史販売等の状況

加計町史

発行部数 (冊)	28 年度末 在庫数(冊)	29 年度出庫状況(冊)			29 年度末 在庫数(冊)
		販売	寄贈	交換	
6,600	2,950	3	0	0	2,947

筒賀村史

発行部数 (冊)	28 年度末在 庫数(冊)	29 年度出庫状況(冊)		29 年度末 在庫数(冊)
		販売	寄贈	
3,600	1,094	0	0	1,094

戸河内町史

発行部数 (冊)	28 年度末 在庫数(冊)	29 年度出庫状況(冊)		29 年度末 在庫数(冊)
		販売	寄贈	
4,500	1,357	2	1	1,354

(2) 社会教育施設管理事業

事業の目的・内容

社会教育施設の運営維持のため、以下の施設について保守・整備・修繕を行う。

施設名	金額(円)	備考
戸河内ふれあいセンター	189,863,331	賃金・需用費・工事費・委託料 他
筒賀公民館	522,612	光熱水費・通信運搬費 他
筒賀公民館東区分館	181,544	消耗品・電話料・施設管理委託料 他
温井文化センター	225,575	施設管理・浄化槽管理委託 他

香南文化センター	372,254	指定管理・建物共済
----------	---------	-----------

事業の成果と課題

ア 「戸内ふれあいセンター」全面改修工事費（174,522,600円）

竣工後20年以上が経過したことから、機能向上に資する大規模改修を行なった。屋根、外壁の全面改修や、アリーナ照明のLED照明化など実施した結果、利用環境の向上、省エネ化、長寿命化が図られた。

今後も注視して不具合箇所を早期に発見し、適切な補修を行う。

歳出決算額 191,176,437円

(3) 文化財保護管理事業

事業の目的・内容

指定文化財を含め貴重な財産である文化財の保存維持を図る。

事業の成果と課題

ア 「広島県史跡下筒賀の社倉保存整備事業」補助金

6,674,400円（うち県補助金3,337,000円）

「下筒賀の社倉」の茅葺屋根部分の老朽化が著しく、特に近年は、軒先も下がり棟部分もずれ落ち雨漏りもしかねないなど、損傷が激しくなっていた。傷みが激しくなればなるほど他部材の腐食等も進んでしまうため、文化財の保護保存上、全面茅葺屋根の維持補修を実施した。

歳出決算額 7,133,658円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	県指定文化財（1件）については、県補助金を活用して保存事業を実施した。			
外部評価	B	評価委員意見	文化財の十分な管理保存維持に、引き続き努めて欲しい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(4) 生涯学習推進事業

- 地域生涯学習センター（小学校廃校地域対象）

事業の目的・内容

廃校となった小学校区を対象に地域生涯学習センターを開設した。

各地域の団体と連携し、講座や教室、スポーツ大会の開催、地域情報の提供等を実施し地域の活性化を促す。

事業の成果と課題

講座や教室、スポーツ大会の開催等で地域の活性化が図られた。

センター名	金額（円）	備考
松原地域生涯学習センター	84,921	報償費及び消耗品
二郷地域生涯学習センター	255,600	報酬
合計	340,521	

評価

事業の 評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	各種事業推進をお願いし、地域活性につなげてほしい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

- 子ども会活動

事業の目的・内容

連合会の事務局を教育委員会内に置き、町子ども会連合会としての主催活動を展開し、情報の交換・共有を図る。

事業の成果と課題

様々な事業を行う中で地域の子ども会活動を支援し、子どもたちに楽しむ場を提供した。

子どもの減少により、子ども会を組織できなくなる地域が増えているが、町子ども会連合会を受け皿にして、町子ども会連合会の主催活動には全ての子どもが参加できる体制をとっている。

ア 安芸太田町子ども会連合会活動の促進・支援

総会 年1回開催(5月11日)

役員会 年6回開催

イ 漁村交流会

趣旨 海沿いに面する地域に住む町外の子もたち(山口県熊毛郡上関町)との交流を図るとともに、お互いの子ども会活動の情報を交換しあう中で、更なる活動の活性化を進める。

主催 安芸太田町子ども会連合会

上関町子ども会育成連絡協議会(山口県熊毛郡上関町)

日時 平成29年7月22日(土)~23日(日)

場所 山口県熊毛郡上関町

ウ 親子クリーンハイキング

趣旨 親子でハイキングをすることにより親子の絆を深めるとともに、ハイキングの際、ゴミを拾うなど美化活動を行なうことにより環境保全の意識、ボランティア精神の向上を高める。

主催 安芸太田町子ども会連合会

日時 平成30年3月25日(日)

場所 川・森・文化・交流センター~加計市街地

参加 約30人

• P T A活動

事業の目的・内容

安芸太田町P T A連合会(以下町P連とする)の事務局を教育委員会内に置き、町P連としての主催活動を促進し情報交換・共有を図るとともに、各学校単位P T A(以下「単P」とする)の活動を支援する。

事業の成果と課題

単Pの支援及び町P連会議を行うことにより、単P間の情報の共有ができP T A全体としての意向の方向付けができた。

ア 安芸太田町P T A連合会活動の促進・支援

総会 年1回開催(4月26日)

理事会 年4回開催

県P T A全小・中学校P T A会長研修会参加

日本P T A全国研究大会参加

日本P T A中国ブロック研究大会参加

全小・中学校母親代表研修会

イ 四季の教室『夏』~川の中をのぞいてみよう~

趣旨 町内の四季折々の自然に直接触れ、豊かな地域の自然の特色を楽しく学び、郷土を愛する心を育む。

主催 安芸太田町PTA連合会
安芸太田町子ども会連合会
安芸太田町教育委員会
日時 平成29年9月2日(土)
場所 戸河内桜公園付近
講師 広島県環境保健協会 環境生活センター 水道事業課 原竜也さん
参加 14人

ウ 四季の教室『秋』～深入山の生き物調査隊～

趣旨 町内の四季折々の自然に直接触れ、豊かな地域の自然の特色を楽しく学び、郷土を愛する心を育む。

主催 安芸太田町PTA連合会
日時 平成29年9月24日(日)
場所 深入山周辺
講師 上野 吉雄 さん、上手 新一 さん、佐久間 智子さん
参加 16人

• 青少年育成町民会議活動

事業の目的・内容

町民会議の事務局を教育委員会内に置き、町民会議として主催活動を促進するとともに、情報交換・共有を図る。

事業の成果と課題

各種事業を行うことにより関係団体間の連携・情報交換ができ、地域全体で青少年を育んで行くという大きなつながりができた。

ア 青少年育成安芸太田町民会議活動の促進・支援

総会 年1回開催(5月26日)
常任理事会 年2回開催

イ 立志式の開催

趣旨 成長過程にある安芸太田町内中学校2年生を激励するとともに、生徒自らが自立心をもって生きることを促し、心豊かでたくましく生きる生徒の育成を図る。

日時 平成30年2月3日(土)
場所 戸河内ふれあいセンター メイプルホール
講師 農家レストラン ZIRYO オーナー 奥田 圭佑 さん
対象者 町内中学2年生45人

ウ 第12回あきおおたゲームハイキングの開催

趣旨 町内の自然・文化・歴史を訪ね、地域の方から話を聴き、地域を知るとともに、郷土に誇りを持ち郷土を愛する心を育む。
また、多くの仲間との交流を通じて、協力することの大切さを学ぶとともに、友情の和を広げ世代の枠を超えた交流の中で、お互いを理解しあう。

主催 青少年育成安芸太田町民会議
 日時 平成30年3月28日(水)
 場所 加計地域、吉水園 他
 参加 50人

エ 県民会議等の主催する行事等への参加

事業名	開催日	参加
青少年育成広島県民会議第29回総会(広島市)	6月14日	1人
市町民会議ネットワーク研究会	平成29年度は実施なし	
青少年育成県民運動推進大会	10月28日	5人

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	青少年育成に当たって、様々な事業に取り組み、成果が上がっている。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

• 安芸太田町成人式

事業の目的・内容

新成人の門出を祝福するとともに、大人の仲間入りをしたことによる義務と責任を再確認してもらうための事業である。

開催日時 平成30年1月7日(日) 11:00~

開催場所 温井スプリングス

対象者 平成9年4月2日~平成10年4月1日生まれ

対象人数 男性 25人 女性 27人 計 52人

出席者数 男性 21人 女性 17人 計 38人

内 容 第1部「記念式典」

第2部「記念行事」

オープニング

懇親会（テーブルマナー、安芸太田町の紹介、恩師からのメッセージ、新成人レポート、中学校の思い出スライドショー、未来へつなく戸河内ウイスキー）

記念品 「ウイスキーカップ」 風災窯

事業の成果と課題

例年通りの記念式典に加え、懇親会形式の記念行事を行い、2部構成に内容を一新することで、新成人自らが成人式に関わり、自分たちの成人式を作り上げ、新成人としての自覚と責任を高めることができたと思われる。

また、出席率は73%と高く、成人式を通して町への思いを新たにし、今後町へ何らかの関わりをもつことにつなげることができた。

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	「ふるさと回帰」という観点のもと、これまでの成人式とは趣向を変えて計画段階から庁内PTを立ち上げて実施した。			
外部評価	B	評価委員意見	出席率も高く新成人としての自覚と責任を再確認する事業で、更なる充実を願う。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

- 公民館講座（そろばん教室）

事業の目的・内容

そろばん教室を通して、現代の子どもたちに低下しがちな集中力、忍耐力、積極性を養う。

事業の成果と課題

受講者数は25人であった。

毎月検定を行うことにより、よりレベルを上げて行くというチャレンジ精神が養われている。

金額

266,000円 @7,000円×38回

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	講座を通して、町民の文化に対する意識の向上を図る大切な事業である。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

• カルチャー教室

事業の目的・内容

都市部では様々なカルチャー講座が実施され、意欲のある人が参加している。しかし安芸太田町ではたとえ意欲がある人がいても、交通手段等の事情により受講することが難しい。そこで町が講師を招へいし、町民に対し安価で受講できるカルチャー講座を開講することにより、町民の文化に対する意識向上や生きがいづくり、日常の充実を図る。

太極拳を、3ヶ月を1つの期間として、3期（第1期：6月～7月、第2期：8月～10月、第3期：10月～12月）実施した。また、マナー講座は2期（第1期：6月～8月、第2期：10月～12月）、トールペイント（6月～11月）を1期実施した。

また、インターネットの利用促進とインターネットの活用による生きがいづくり等を目指し、シニアのパソコン教室を全4期実施した。

内 容	開催日	開催場所
暑中見舞いハガキ作成	6月6日～8日	川・森・文化・交流センター
住所録作成	9月5日～7日	本庁東館
年賀状作成	11月7日～9日	本庁東館
家計簿作成	3月6日～8日	川・森・文化・交流センター

事業の成果と課題

受講者数 100 人と平成 28 年度と比べ受講者数が増加し、町民の生きがいづくり、日常の充実、町民の交流が図られた。

対象者を中級～上級者向けとしたパソコン教室中心に、エクセルを活用した講座を実施

するなどパソコンの利用促進、パソコンの実用的な活用による生きがいがづくりが図られた。
 今後は各地域で開催し、更なるインターネットの利用促進とインターネットの活用による生きがいがづくりを目指す。

金額

講師料、講師交通費 1,141,560 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	受講リピーターが多い反面、新規講座の受講者が少ない。今後も魅力あるメニューとなるようニーズを把握していく必要がある。			
外部評価	B	評価委員意見	カルチャー教室の開講は生きがいに良いことであり、継続されたい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

• 芸術文化推進事業

事業の目的・内容

質の高い芸術文化に触れてもらうことにより、町民の芸術文化感覚を養う。

また、文化団体連合会の事務局を教育委員会に置き、町民の芸術文化活動を発表する場を設けることにより、町民の日々の生きがいがづくりを支援する。

事業の成果と課題

質の高い芸術文化は町民に感動を与え、また、町民の発表の場では素晴らしい演舞等の中に笑顔を生み出すことができた。

高齢化等による観客数の減少や、文化団体の出演団体数が減少している。加盟団体数も微減しており、支部での活動は困難となったため、平成 28 年度から支部をなくし、連合会一本としている。

ア 安芸太田町文化団体連合会活動の促進・支援

総会 年 1 回開催（4 月 25 日）

幹事会 年 3 回開催

イ 文化団体連合会の主な主催事業

第 2 回安芸太田町文化芸能フェスティバル

日 時：10月14日（土）～15日（日）

場 所：川・森・文化・交流センター

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	町民の芸術文化振興のため、文化芸能の発表の場づくりは必要。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

• 人権関係

事業の目的・内容

ア 地域人権教育支援事業

回	日 時	対 象	内 容	参加者
1	11月6日（月）	津浪振興会	テーマ「あたたかい居場所」 講師 NPO 法人「ほしはら山の学 校ふるさと自然体験塾」 塾長 浦田 愛 さん	36人

イ 人権フェスタの開催

平成29年度は町・教育委員会の主催で開催した。各団体・機関が実施している人権イベントの連携と交流のネットワークを図り、お互いの活動を紹介し合い、情報を共有し、人的な交流を深め合うことを大切にするため、平成20年度から実施している。

日時 平成29年12月9日（土） 10：00～12：30

場所 川・森・文化・交流センター（1階やまびこホール）

・オープニング 深山峡太鼓（川北子ども会）

・人権講演会 落語家 桂 七福 さん

・人権展：町内小学6年生の人権標語展示

（人権標語は町内小・中・高等学校、町内企業等所で展示）

事業の成果と課題

地域の自治振興会を対象とした「地域人権教育支援」は、地域の自主的・主体的な取り組みとして、1地区で実施した。開催時期や時間帯などの要望は様々であり、今後はなるべく参加しやすいよう、意向に添うものにしていく必要がある。

また、人権週間・障害者週間と合わせ、平成29年度で10回目となる「人権フェスタ」を開催した。平成28年度のアンケートにおいて、「また、講演を聞いてみたい」という意見が多く好評であったことから、引き続き落語家 桂 七福 さんに依頼した。オープニングは「深山峡太鼓(川北子ども会)」、演題は「笑いの中に何かが見える～笑顔が結ぶ、人とのつながり～」である。町内外から約100人の参加があり、多くの方との交流を深めるなかで人権の大切さを改めて確認できるイベントとなった。

歳出決算額 3,109,062円

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	イベント啓発が中心となっている。日常の中で、共に見つけ学ぶ人権教育と相対していく必要。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(5) 図書館運営事業

事業の目的・内容

- ・図書館協議会開催

日時 平成30年2月21日(水)

議題 平成29年事業報告及び平成30年度事業計画について

- ・図書購入状況

	区分	29年購入	金額 [円]	備考
本館	蔵書	751冊	1,139,125	総冊数 46,490冊
	雑誌	19種類	141,499	総冊数 573冊

筒賀分室	蔵書	171冊	245,955	総冊数 9,436冊
	雑誌	4種類	26,162	総冊数 248冊
戸河内分室	蔵書	261冊	383,121	総冊数 13,632冊
	雑誌	9種類	71,625	総冊数 415冊
大型絵本・紙芝居		7点	20,088	蔵書へ含む
視聴覚		12点	127,764	総数 870点

・図書館利用状況

ア 開館日数	〔本館〕	277日
	〔筒賀分室〕	267日
	〔戸河内分室〕	293日

イ 貸出し冊数

区分		本館	筒賀分室	戸河内分室	移動図書館
貸出し冊数	一般書	7,532冊	1,329冊	2,393冊	1,597冊
	児童書	11,345冊	1,719冊	2,682冊	4,192冊
	雑誌	1,034冊	70冊	590冊	1冊
	視聴覚	1,805点	48点	203点	22点
	その他	37冊	0冊	0冊	0冊
	計	21,753冊	3,166冊	5,868冊	5,812冊

ウ 移動図書館やまびこ号

- ・月1回 火・木・金曜日に町内19箇所を巡回
- ・利用状況 利用者数 1,884人

エ 平成28年度に引き続き司書2名体制で巡回活動を行った。

- ・小学校4校、中学校2校 絵本の読み聞かせ、図書室整理など
- ・幼稚園・保育園・児童センター7か所 絵本の読み聞かせ

事業の成果と課題

図書館での読書環境改善や、図書館利用の促進と子どもの読書を推進する取り組みとして、図書館外へ本を送り出す「移動図書館やまびこ号運行」や「司書による巡回活動」、「県立図書互助・教弘文庫」、「おひさま文庫（旧学校図書）」活動を定例行事等と合わせて展開し、多くの本に出会う機会と情報提供を行うことで利用増加を図った。

移動図書館の巡回場所の変更などを行った結果、一般利用者と小学生の利用が増加し、貸出し冊数は対前年比を上回った。

歳出決算額 12,538,220円

評価

事業の 評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			

	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	子どもだけでなく大人も読書ができていない。図書館利用の促進を図る必要がある。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(6) 放課後子ども教室推進事業

事業の目的・内容

放課後や長期休業日に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設ける。

地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

区 分		事業の実績内容	
1	子ども教室名	加計小学校放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	加計小学校区	
3	実施場所	安芸太田町立加計小学校	
4	実施日数	年間： 241日	平日 203日
			土曜日及び長期休 38日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	人数： 26人

区 分		事業の実績内容	
1	子ども教室名	修道放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	旧修道小学校区	
3	実施場所	旧修道小学校・修道活性化センター	
4	実施日数	年間： 34日	平日 0日
			長期休業日 34日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	人数： 9人

区 分		事業の実績内容	
-----	--	---------	--

1	子ども教室名	戸河内小学校放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	戸河内小学校区	
3	実施場所	安芸太田町立戸河内小学校	
4	実施日数	年間： 240 日	平日 205 日
			土曜日及び長期休業日 35 日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	人数： 17 人

区 分		事 業 の 実 績 内 容	
1	子ども教室名	津浪放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	旧津浪小学校区	
3	実施場所	旧津浪小学校	
4	実施日数	年間： 26 日	平日 0 日
			長期休業日 26 日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	人数： 6 人

事業の成果と課題

平成 29 年度も町内 4 箇所で事業を実施した。加計小・戸河内小放課後子ども教室については土曜日にも開校している。

勉強やスポーツ・文化活動や長期休業日期间には地域住民との交流活動を行い、子どもたちの安全・安心な活動拠点づくりが図られた。

しかし一部の教室ではスタッフが不足しており、スタッフの確保に苦慮している。また、利用希望児童は増加したが、施設規模、スタッフ数の問題もあるため、希望者全員を受け入れることができず、課題が残った。

補助事業	補助事業対象経費総額	補助金額(2/3)
放課後子ども教室推進事業	4,382,499 円	2,921,000 円

歳出決算額 5,194,303 円

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	一部の教室では、利用希望者が一気に増加。だが、施設規模及びスタッフ確保の問題もあり、希望者全員を受け入れることはできなかった。			

外部評価	B	評価委員意見	地域の方の参画しやすい方法によりスポーツ、文化、交流活動を充実させて欲しい。
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了		

2. 保健体育総務費

(1) 保健体育総務管理事業

事業の目的・内容

- ア スポーツ推進委員報酬 13人 442,000円
- イ 平成29年度 広島県スポーツ推進委員研究大会
日時 平成29年7月8日(土)
場所 福山市(神辺文化会館)
参加 4人
内容 講演
- ウ 平成29年度 広島県女性スポーツ推進委員研修会
兼尾三地区スポーツ推進委員研修会
日時 平成29年8月27日(日)
場所 三原市(三原リージョンプラザ)
参加 2人
内容 講演・実技研修
- エ 平成29年度 広島県総合マネジメント研修会
兼芸北地区スポーツ推進委員研修会
兼ファミリー健康体力向上事業伝達講習会
日時 平成29年12月3日(日)
場所 安芸高田市(美土里生涯学習センターまなび)
参加 8人
内容 講演・実技研修
- オ 平成29年度 安芸太田町スポーツ推進委員研修会
日時 平成29年10月11日(水)
場所 加計体育館
参加 6人
内容 実技研修
- カ 安芸太田町体育協会総会
日時 平成29年5月23日(火)
議題 ・平成28年度事業報告及び収支決算報告について
・平成29年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について
補助金 1,603,200円

キ 第 55 回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会

日時 平成 29 年 7 月 28 日（金）～31 日（月）

場所 つつがライフル射撃場

参加 45 都道府県 130 校 参加選手 532 人

宿泊者数 延べ 1,412 人（うち町内 延べ 1,037 人）事務局把握分

事業の成果と課題

スポーツ推進委員の研修参加によりスキルアップが図られた。

また、ライフル射撃大会を実施することで町内の宿泊業者、弁当業者、印刷、記念品業者、バス事業者等に経済波及効果が生まれた。

歳出決算額 4,401,100 円

ア 全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会安芸太田町実行委員会

収 入

項 目	金額[円]	備 考
スポーツ団体負担金	800,000	全国高等学校ライフル射撃部 600,000 日本ライフル射撃協会 200,000
町補助金	2,300,000	地域活性化センター基金 800,000 町補助金 1,500,000
参加料	2,626,000	団体 1,030,000 個人 1,596,000
雑 入	517,255	出店料 20,000 広告料 60,000 記念 T シャツ販売等 497,255 円
預金利息	7	
繰越金	440,850	平成 28 年度より繰越
計	6,684,112	

支 出

項 目	金額[円]	備 考
報償費	514,600	参加者記念品他
旅 費	88,200	ライフル技術員派遣旅費
需用費	1,402,073	射撃競技用品消耗品・パンフ印刷他
役務費	747,016	競技用具郵送他
使用料及び賃借料	3,147,431	送迎バス・テント他
食料費	41,968	役員用
委託料	425,997	保険・交通警備員他
計	6,367,285	

収入 6,684,112 円 - 支出 6,367,285 円 = 316,827 円 次年度へ繰越し
評価

事業の 評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			

	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	スポーツ推進委員の研修等を通じて、指導力を高めることは大切である。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

（２） 体育施設管理事業

事業の目的・内容

町内の体育施設の維持管理、修繕等を行う。

事業の成果と課題

近年すべての体育施設は老朽化しており、年々修繕費等の経費が増大している。

歳出決算額 25,914,076 円

施設	設置場所	支出額[円]	備考
体育施設	加計体育館	6,770,000	指定管理委託料
	修道活性化センター	346,000	管理委託料
		1,513,841	保守点検・維持管理等
	坂根スポーツ広場	360,000	管理委託料
495,520		保守点検・維持管理等	
スポーツ広場	見入ヶ崎・温井・松原・杉の泊・修道・津浪・殿賀	393,300	管理委託料
学校体育施設	加計小	30,000	管理委託料
町内プール	加計・温井・戸河内・筒賀・坂原・井仁・松原・猪山・上殿・寺領・平見谷・修道・津浪	3,509,139	賃金・管理委託料等
		2,810,346	保守点検・維持管理等・水質検査、AEDレンタル等
		2,070,430	プール薬剤等
合計		18,298,576	
施設	設置場所	支出額	備考
体育施設	修道活性化センター	641,736	電気、上下水道、燃料

	坂根スポーツ広場	91,772	
スポーツ広場	見入ヶ崎・温井・黒峠・松原・至誠・筒賀ふれあい・筒賀多目的・修道・津浪・殿賀	518,112	
学校体育施設 夜間照明	加計中・戸河内中・筒賀中・加計小・筒賀小・戸河内小・上殿小	593,015	電気
町内プール	加計・温井・戸河内・筒賀・松原・猪山・上殿・寺領・平見谷・井仁・坂原・修道・津浪	2,175,907	電気、上下水道、燃料
光熱水費合計		4,020,542	

ア 加計体育館利用状況

年間利用状況

利用日数(日)	利用件数(件)	利用者のべ人数(人)
307	681	14,484

種目別利用状況

種目	利用団体(団体)	利用件数(件)	利用者のべ人数(人)	利用料金(円)
バレーボール	11	255	4,834	225,620
ビーチボールバレー	1	67	865	54,940
バドミントン	10	115	1,298	177,195
卓球	4	75	701	44,510
テニス	1	17	187	
フットサル	3	58	1,605	209,395
チェアエクササイズ	1	17	176	10,455
バスケットボール	4	16	134	41,720
その他	16	61	4,684	603,103
合計	51	681	14,484	1,366,938

イ 戸河内ふれあいセンター利用状況

年間利用状況

メイプルホール			アリーナ		
利用日数(日)	利用件数(件)	利用者のべ人数(人)	利用日数(日)	利用件数(件)	利用者のべ人数(人)
61	68	3,718	101	136	3,345

種目別利用状況

種 目	利用団体 (団体)	利用件数 (件)	利用者のべ人数 (人)	利用料金 (円)
バレーボール	5	9	116	3,300
ビーチボールバレー	1	8	50	800
ソフトバレーボール	1	16	91	1,700
バドミントン	1	11	179	19,110
卓 球	5	48	478	6,500
剣 道	2	14	165	1,680
その他	12	30	2,266	77,327
小 計	27	136	3,345	110,417
メイプルホール	18	68	3,718	216,410
ロビー	0	0	0	0
小 計	18	68	3,718	216,410
合 計	45	204	7,063	326,827

(3) 社会体育振興事業

事業の目的・内容

ア 近郡ゲートボール大会

日時 平成 29 年 9 月 9 日 (土)

場所 坂根スポーツ広場

参加 9 チーム

イ 安芸太田町民グラウンドゴルフ大会

日時 平成 29 年 7 月 2 日 (日)

場所 深入山グラウンドゴルフ場

参加者 114 人 (21 自治会)

ウ 安芸太田町総合型地域スポーツクラブ

日時 1 年間 (平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日)

場所 加計体育館、川・森・文化・交流センターなど

延べ参加者 310 人

事業の成果と課題

安芸太田町総合型地域スポーツクラブ「安芸太田ファン×Funクラブ」は、toto(スポーツ振興くじ)の補助金を活用して、生涯スポーツの振興を目的として7種目/年間を実施してきた。

当該組織は、住民が主体となって気軽にスポーツする機会を提供することを目標としていたが、住民主体の組織づくりが完成する前にクラブ運営が困難となり、クラブの判断により、平成 30 年度以降の活動を休止することとなった。

行政は今後も住民ニーズを把握しながら、スポーツ振興に資する住民の活動を側面支援する必要がある。

歳出決算額 3,166,055 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	町民の生涯スポーツのニーズを把握しながら、スポーツを通して健康づくりの推進をしていただきたい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			